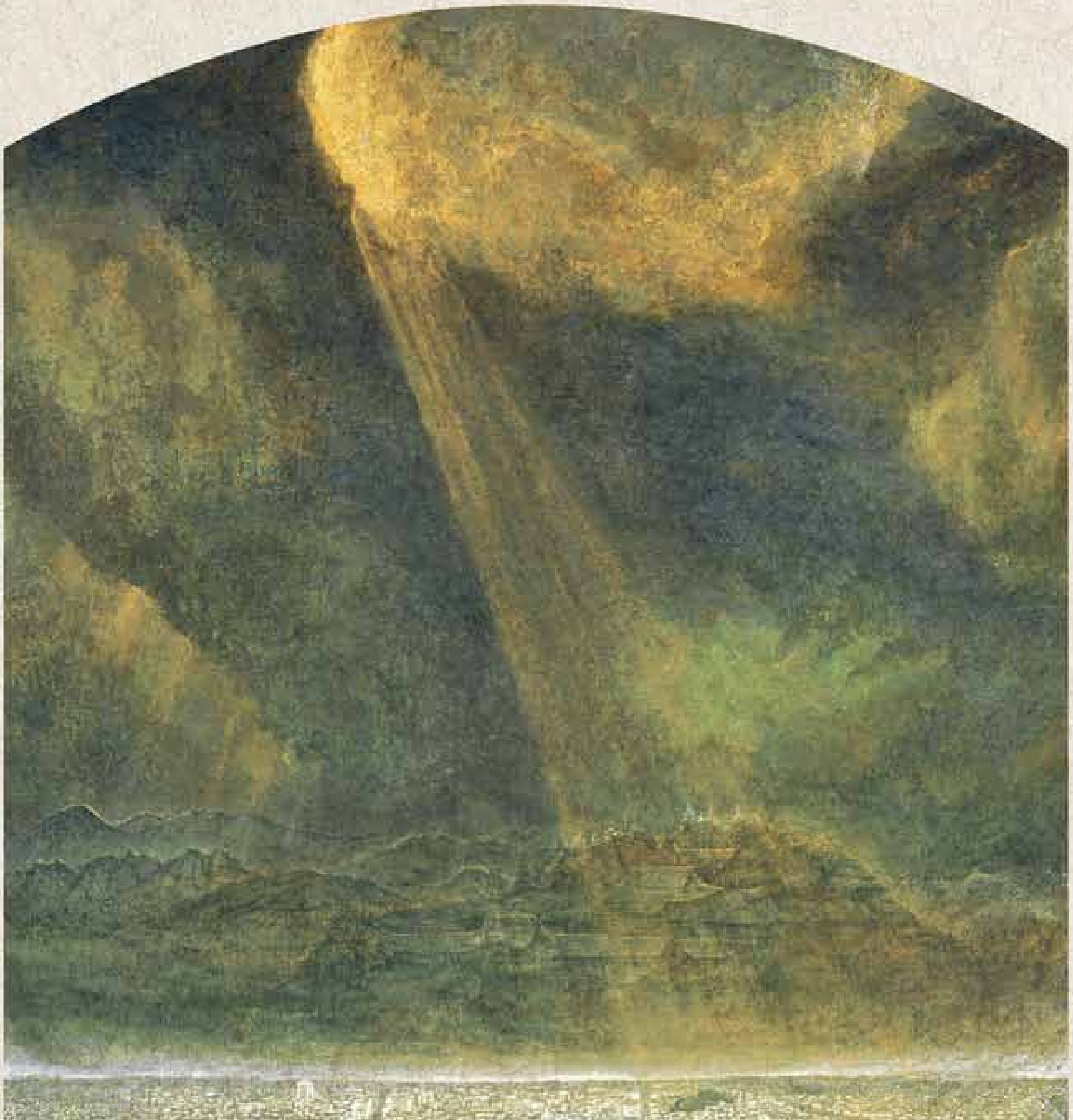
# 明神さま

宇都宮二荒山神社



# 御代替わりに伴う祭典

令和

## 新しい時代「令和」を迎えて

5月1日に天皇陛下が御即位され、元号も「令和」に改まりました。
当社でもさまざまな奉祝祭典で、新しい御代を祝いました。

初春の令月（れいげつ）にして、気淑（よ）く風和（やわら）ぎ、
梅は鏡前の粉（こ）を披（ひら）き、蘭は珮後（はいご）の香（かお）を薫らす
（『万葉集』巻五、梅花の歌三十二首序文）

【現代語訳】初春の佳き月で、空気は清く澄みわたり、風はやわらかくそよいでいる。梅は佳人の鏡前の白粉のように咲いているし、蘭は貴人の飾り袋の香のように匂っている。

これまでの元号はすべて漢籍（中国の古典）からとられてきましたが、新しい元号「令和」は初めて日本の古典『万葉集』を典拠に定められました。

広がる祝賀ムード

令和初日の県内

幸せ願い 長蛇の列

各所で幕開け彩る

御朱印求め県内外から

宇都宮 二荒山神社

●参拝客

令和元年５月２日付　下野新聞

## 令和元年五月一日

### 践祚改元奉告祭（せんそかいげんほうこくさい）

「践祚」とは、皇嗣が天皇の位を承け継ぐことです。令和の最初の祭典では、天皇陛下の御即位と元号の改元を二荒山大神様の御神前に奉告し、国の御栄をお祈りしました。

## 令和元年十月二十二日

# 即位礼当日祭

天皇陛下の即位礼正殿の儀が、皇居の松の間でおこなわれました。高御座に登られた天皇陛下が、御即位を内外に広く宣明なされました。二荒山神社ではこの日、奉祝の祭典を執り行い、氏子総代齋藤高蔵会長の先導により、皇居に向かい聖寿萬歳を行いました。

## 令和元年十一月十二日

# 臨時大祓

大嘗祭の二日前に、臨時大祓を斎行しました。宮中では大嘗祭二日前大祓が行われるのにならい、全国の神社で臨時の大祓が行われました。

## 令和元年十一月十四日

# 大嘗祭当日祭

天皇陛下、御一代に一度の重儀である大嘗祭が十一月十四・十五日に、皇居に設けられた大嘗宮で執り行われました。二荒山神社では当日の祭典に、神社本庁からの幣帛と、栃木県の悠紀地方卜定を祝い設けられた、奉祝田で採れた新穀をお供えし大祭を執り行いました。

巫女　浦安の舞奉納

奉祝田　抜穂祭(9月3日斎行)

宮司祝詞奉上

神前に備えられた
悠紀地方奉祝米

奉祝　天皇陛下御即位

令和元年
十月
二十六日
二十七日

# 御大典記念 うつのみや流鏑馬（やぶさめ）

今年の菊水祭では、恒例の流鏑馬が2日間にわたって行われました。特に、27日の「御大典記念うつのみや流鏑馬」は、初めて宇都宮城址公園で行われ、多くの方にご観覧いただきました。当日の勇姿を写真でご紹介します。

毎年10月最終土・日に行われる菊水祭では、鳳輦渡御（26日は上町、27日は下町を渡御）に加えて流鏑馬神事が奉納されています。例年は両日ともに午前、午後の2回、渡御の前と後に、大鳥居内に馬場を設けて行われています。

今年も、26日の午前・午後と27日午前は例年通り大鳥居内で行われましたが、27日午後の流鏑馬は、宇都宮城址公園で奉納されました。

天皇陛下の御即位を祝って「御大典記念 うつのみや流鏑馬」として開催された、この日の流鏑馬神事。広い城址公園を北から南へ縦断する長い馬場を作って、そこに的を2本立てて、準備しました。晴天の空の下で、城址公園の土塁の上の復元された櫓が、始まりを今や遅しと待っています。

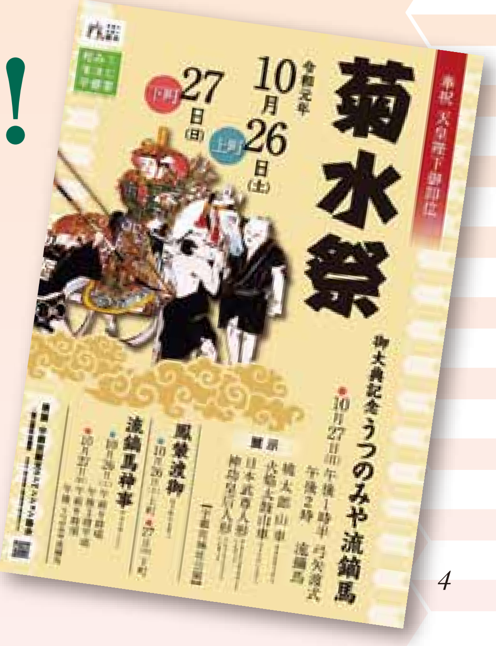
午後1時頃、鳳輦渡御が城址公園に入りました。公園内にはすでに約1500人の見学者が集い、鳳輦渡御の到着と流鏑馬の開始を待っていました。

午後1時30分、馬を駆って矢を射る射手に弓矢を渡す儀式「弓矢渡式」が執り行われ、8人の射手は神妙なおももちで弓矢を手にし

## 続に会場も歓呼の声！

流鏑馬の奉納に先立ち、射手が大幣を振る奉幣の儀

流鏑馬奉告祭が行われ、鳳連の前で稚児が舞を奉納する



ました。いよいよ開始が近づき、見学者たちもできるだけ前で見ようと、馬場の周辺に張り巡らされたロープぎりぎりまで詰め寄り、固唾を飲みます。

午後2時、いよいよ流鏑馬神事が始まりました。8人の射手はみごとな手綱捌きで馬を駆ります。長い馬場を猛スピードで駆け抜ける馬たち、そして一瞬のタイミングを逃さず弓を構え、電光石火の妙技で弓を的に射る射手たち。人馬一体の早業に、見学者たちは大きくどよめき、的中の度に大きな拍手喝采が上がりました。

天皇陛下御即位を奉祝して執り行ったうつのみや流鏑馬、城址公園での流鏑馬ははじめてのことでしたが、日光東照宮やご協力いただいた関係者の方々、弓矢渡式から神事の終了まで、ていねいに解説進行をしていただいた、國學院大學栃木短期大学の酒寄雅志教授とフリーアナウンサーの須賀由美子さん、そして菊水祭と流鏑馬の神事に奉仕していただいた方々に対して、見学に訪れた大勢の人達から盛大な拍手が送られた光景は、まさに御大典記念としてふさわしい神事となりました。

この日は桃太郎山車や火焔太鼓山車、日本武尊人形、神功皇后人形など、江戸から戦前にかけて菊水祭を彩った山車・人形も展示され、流鏑馬神事に華を添えました。

# まさに人馬一体！ 的中の連

菊水祭ゆかりの山車が展示され、お囃子が会場を賑やかに盛り上げた

うつのみや流鏑馬の射手奉仕者（一ノ射手より四ノ射手）

流鏑馬の総奉行、日記役、馬場元末役、的奉行の奉仕者

令和元年十一月二十三日

# 御大典奉祝神輿渡御

（ごたいてんほうしゅくみこしとぎょ）

▲本社神輿（オタリヤ）

▼聖寿萬歳

天皇陛下の御即位御大典を奉祝して、担ぎ手千人により神輿渡御を行いました。

平成の御大典の際に、多くの担ぎ手の奉仕によって、奉祝の神輿渡御を行ったことから、新しい令和の時代にも大御代の御栄をお祈りして、御大典奉祝神輿渡御を執り行いました。

当日は、二荒山神社の社殿で、神輿渡御を行うことを神様に奉告する発輿祭が行われ、続いて大鳥居内で出発の儀式を行い、午後1時から御大典奉祝神輿渡御が始まりました。

お囃子の先導で、男の子たちが掲げる高張提灯、高らかに唄う木遣り、着飾った少女たちの手古舞金棒などが練り歩きました。その後ろに続くのが太鼓神輿と本社神輿（オタリヤ）、須賀神輿の3基の神輿です。大鳥居を出てバンバ通りを南へ下り、オリオン通りを西へ進みました。太鼓神輿が勇壮に太鼓を打ち鳴らせば、それに応えるように神輿の担ぎ手たちが掛け声をかける光景に、迎える見学者たちも拍手喝采。歓声がオリオン通りに響き渡りました。

雨模様となったために、予定していたコースを変更しての渡御となりましたが、午後3時に大鳥居内に帰還して、神輿が石段下にそろうと、奉仕者一同で皇居の方向に向かい、声高らかに聖寿萬歳を行いました。

この日は、天皇陛下が御即位のご報告のために伊勢神宮へ御参拝される親謁が行われた日でもありました。

二荒山神社神輿保存会や、呼び掛けによって集った大勢の担ぎ手たち、氏子総代や奉仕の人々が、天皇陛下の御即位をお祝いして、心を合わせて行った奉祝神輿渡御は、多くの人の心に残ったことでしょう。

▲本社御輿が大鳥居内に帰還

▲オリオン通りに掛け声を響かせた須賀御輿

▲高張提灯や手古舞で子供たちも活躍

▲太鼓御輿が二荒山神社を出発

# 宇都宮のおまつり今昔

## 「節分祭　厄難講一〇〇周年」

「鬼は外・福は内」毎年二月の節分日には、二荒山神社で節分祭が行われます。節分の豆まきは、邪気を払い春を迎える行事です。お祓い御祈祷を受け、社殿内で追儺の儀（豆まき）に続き、年男年女講員による福撒きでは、福を求める大勢の参拝者で境内が賑わいます。

二荒山神社の節分祭は、厄難消除祈祷講の講員によって、大正十年（一九二一）に始められ、来る令和二年二月三日に記念すべき一〇〇周年を迎えます。これまでに参加した講員は一万二千六二名になります。

その年の干支の年男年女だけではなく、五十年以上も毎年参加している方、親子孫と三代で講員となっている方など、自身の厄除祈願のためだけではなく、多くの人々に神様の福と幸せを別つお役目をご奉仕いただいています。

（講員参加申し込みは社務所にお問合せ下さい。）

社殿内での豆まき（平成）

特設桟敷からの福撒き（昭和）

巫女さんに聞いた！

## 二荒山神社のあれこれ

### 宇都宮の名水「二荒山神社の明神の井」

**宇都宮の七名水のひとつとして有名です。**

当社境内には宇都宮の名水の一つ「明神の井」があります。昔から伝わる由緒ある名水で、神様のお供え水としています。明治天皇が宇都宮においでになった時にさしあげた茶湯に使われ、お褒めのお言葉を頂戴したとされています。

また、この水を使うと書道が上達するという言い伝えが残っています。今でも清らかな水がくみ上げられており、参拝の皆様にもご利用いただけるようになっていますので、今度参拝された折にはぜひお使いください。（水質検査には適合していますが、飲み水として使う際には念のため煮沸してください）

宇都宮には古くから「七木七水八河原」と言われる名木や名水、河原があります。それぞれ諸説ありますが、明神の井はかならず名前が上がっています。

▲宇都宮七水のひとつ「明神の井」

▲清らかな水が龍の口から流れ出る

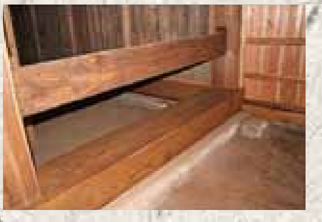
二荒山神社も
新たな時代を
迎えました！

# 御大典奉祝記念事業のご報告

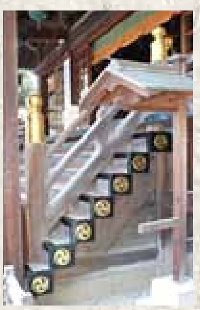
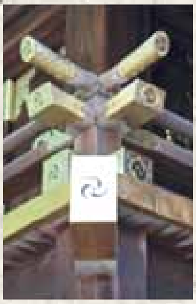
**当社では、天皇陛下御即位御大典を奉祝して、社殿などの修理・修復に取り組んでいます。皆様の御協賛のおかげを持ちまして事業は順調に進み、社殿や拝殿などの修理・修復が竣工しました。**

明治10年（1877）に建てられた二荒山神社の社殿は、建築より140年以上を経過しており、土台・梁・長押等の木材の一部に傷みが生じていました。文化財保護と耐震強化のために平成31年3月より4月に床下や天井の補修と木材の交換工事（施工：日光市　石川工務店 殿）を行い、令和元年6月より8月に本殿及拝殿に取り付けられている錺金具の鍍金と擬宝珠の金箔等の修理工事（施工：日光市　鈴木錺金具工芸社 殿）を行い、令和元年9月1日、竣工奉告祭を行いました。

## 拝殿床下・天井等の修理工事

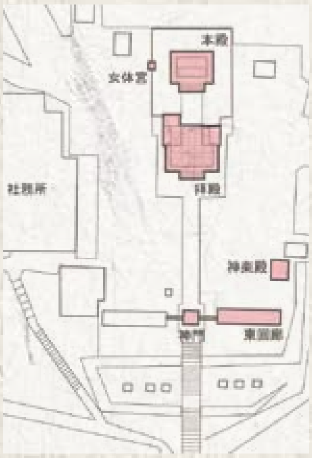


## 本殿・拝殿の金具修理工事

## 二荒山神社の社殿６棟は、栃木県有形文化財・建造物に指定されています

二荒山神社の社殿群は、慶応４年(1868)4月の戊辰戦争により焼失してから、明治時代初期から大正時代にかけて再建されたものである。これらの建物は、明治時代初期における復古の思想から明治時代中期以降の装飾性豊かな造形へと、近代の神社建築の展開を示しており価値が高い。戦災都市宇都宮市の中心部に残ることも貴重といえる。（栃木県教育委員会）



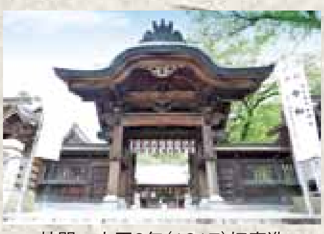

**二荒山神社　社殿6棟（栃木県有形文化財・建造物　平成31年(2019)3月29日指定）**

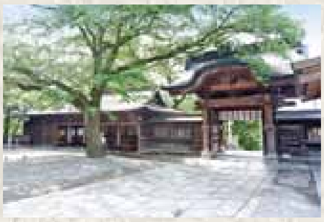
本殿　明治10年(1877)神明造

拝殿　明治10年(1877)入母屋造

女体宮　大正15年改修(1926)神明造

神楽殿　明治19年(1886)入母屋造


神門　大正6年(1917)切妻造


神門･東回廊(内側)

東回廊　大正6年(1917)入母屋造

## 宇都宮二荒山神社「御代替りの御大典奉祝」記念事業　御奉賛のお願い

氏子崇敬者の皆様には、常に変わらぬご敬神をお示しいただき深く感謝申し上げます。

県都宇都宮市の中央に鎮まる宇都宮二荒山神社は、明治時代以前には宇都宮大明神とも称し、下野国(栃木県)一之宮として篤く信仰されて参りました。

御承知のとおり「宇都宮」の地名は、神社の別称である「宇都宮」が起源とされ、市民憲章にも「二荒の杜を中心に栄えてきた街です」と謳われております。

御鎮座以来今日までの永い歴史の中、我が国と地域・郷土の平安を願うお祭りを行う事で、絶えることのない祈りの心を受け継いで参りました。

五月一日に第一二六代天皇陛下が御即位され、「令和」という新しい御代を迎えました。

この度の御大典を奉祝申し上げると共に、愈々御神威高揚の諸記念事業を計画いたす事となりました。

新しき大御代と、郷土の御栄を祈念し奉祝のお祭りを斎行し、歴史伝統ある神社諸祭事のさらなる振興、そして氏子崇敬者のみなさまに潤いと、心の安らぎを感じていただけるよう、「二荒の杜」の境内及び社殿改修などの環境整備を行いたいと存じます。

つきましては、なにとぞ格別なる御理解をいただき、御奉賛の誠を賜りますようお願い申し上げます。

宇都宮二荒山神社　　宮　司　阿　部　　憓
全　　氏子総代会　　会　長　齋　藤　高　蔵

# 「御代替りの御大典奉祝」記念事業

### ◇ 記念事業の概要

一、奉祝行事　奉祝祭・渡御祭・記念植樹を行います。
二、拝殿修理工事（一期工事）
三、境内整備工事（二期工事）
四、祭礼衣装・祭具新調
　　歴史伝統ある渡御神事の振興をはかります。

現在、奉賛者のお名前を記した芳名板（仮芳名板）を境内東側に設置し、御芳名の顕彰を行っております。ご奉納いただきました方々のお名前は、ご社頭で末永くお幸せをお祈りさせていただきます。

### ◇ 奉賛お申し込み

・御奉賛金　一口　一万円より（口数の制限はありません）
・募集期間　平成三十一年　四月より（一年間）
・お申し込み ①御奉納御持参の方は、社務所にお申し込みください。
　②銀行振込　足利銀行　宇都宮支店１０１　普通１３５３１２
　　　　　　　栃木銀行　馬場町支店００５　普通１０８２６５２
　　　　　　　口座名義　宇都宮二荒山神社（ウツノミヤフタアラヤマジンジャ）　宮司（グウジ）　阿部（アベ）　憓（サトシ）
　　　　　　　※恐れ入りますが振込手数料はご負担ください。

### ◇ 御奉賛に対する待遇

| 御奉賛金 | 待　　遇 | 対　象 |
|---|---|---|
| 百万円以上 | 特別記念品・芳名顕彰 | 会社・個人 |
| 十万円以上 | 記念品・芳名顕彰 | 会社・個人 |
| 一万円以上 | 芳名顕彰 | 個人 |

### ◇ お問合せ

宇都宮二荒山神社社務所
電話　０２８(６２２)５２７１
住所　〒３２０-００２６
　　　宇都宮市馬場通り
　　　　　　一丁目一番一号

# 祈りが育む未来 ご家庭から

## 令和の御代をお祝いしましょう

### お伊勢さまは日本をお守りくださる尊い神さま

伊勢の神宮は、全国に数ある神社のなかでも特別な存在のお宮で、皇室の御祖神である天照大御神をおまつりしています。天照大御神は、太陽の光のように私たちの生命を守り、育んでくださる神さまです。

お伊勢さまのお神札を〝神宮大麻〟といい、全国の神社でお頒ちしています。

### 氏神さまは私たちをお守りくださる身近な神さま

日本では古くから、祖先に縁の深い神さまや、地域をお守りくださる土地神さまを氏神としておまつりしてきました。

おまつりされている神さまは神社によって様々ですが、氏神さまは地域に住む子どもの誕生から成長の過程など日々の生活、地域の安全や平穏を見守ってくださっています。

### ご家庭でお神札をおまつりしよう

ご家庭の神棚に、お伊勢さまと地元の氏神さま、崇敬する神社のお神札をおまつりし、日々の暮らしの中での感謝と祈りをささげるとともに、お子さんの誕生や結婚など、ご家庭内で大きな出来事があった際には、氏神さまに報告し、新たに迎える生活の平穏を祈りましょう。

神棚は、居間などの家族が集まる部屋の目線より高い位置に、南または東向きに設置するのがよいとされています。

神棚がない場合は、タンスや本棚の上におまつりするなど、かたちにこだわりすぎずに、出来ることからはじめてみましょう。

# うつのみや町会じまん Vol.7

## 本丸西部自治会

宇都宮城址公園の前を南北に走る本丸西通り。かつては新地街道と呼ばれていた道筋です。「本丸西部自治会は現在71世帯です。近年は子どもさんの数が少ないのが寂しいですね」と語るのは、本丸西部自治会会長の宮本隆昌さん。昭和30年創業の㈱宮本印刷3代目社長で、多忙な業務のかたわら自治会の運営に取り組んでいます。宮まつりと天王祭に町内の神輿を繰り出し、菊水祭には休憩所を設置します。また、今年10月27日に城址公園で「御大典奉祝うつのみや流鏑馬」が開催された折には、自治会を挙げて盛りたてました。

また自治会の「千代の会」では、高齢の方たちを中心に新年会や花見、お楽しみ会など行事のほか, 城址公園の清掃活動も実施しています。

▲本丸西部自治会会長　宮本隆昌さん

## 花房本町自治会

約200世帯を擁する花房本町自治会。お話をうかがったのは会長の富川幸二さんと副会長の阿久津守重さん。「会長になってまだ２年目ですが、皆さんに教わりながらやっています」と話す富川さん。「12月には毎年恒例の餅つき大会があるんです。年末からは防犯パトロールも始まります」と語る阿久津さんは、43年にわたって自治会の役員を務め、会長を支えて自治会の運営に取り組んでいます。７月の町内渡御親子対面、宮まつり、菊水祭には休憩所を設置します。また町内２カ所の公園愛護活動も実施。さらに西原地区の行事にも会を挙げて参加します。「うちは、町の歌もあるんですよ。飲み会では皆で大合唱します」町への愛着を感じる、おふたりの笑顔です。

▲花房本町自治会会長　富川幸二さん

### お正月の参拝

大晦日、お正月の3日までは正面石段がのぼり一方通行となります。危険防止、安全確保のためご協力の程お願い致します。

### 駐車場のご利用について

ご参拝の際には、二荒山駐車場をご利用ください。元旦より3日までは、終日無料開放いたします。4日よりは、通常営業となります。

### おたりやのご案内

12月15日に冬渡祭、1月15日に春渡祭を行います。両日とも夕刻より神輿がお出ましになり、下之宮で御旅所祭(田楽舞奉納)の後、市内を渡御します。おたりやは昔から火防のご利益がある祭とされ、お焚き上げの火にあたると無病息災で過ごせるとされています。

### お焚き上げについて

当社のお焚き上げは、毎年
12月15日　午前9時より午後7時
1月15日　午前9時より午後7時　の年2回です。

この両日は、おたりや祭《冬渡祭・春渡祭》の祭礼日であり、両日朝、お焚き上げを行う旨、大神様に御奉告申し上げる祭典を行い、「斎火」をもって、お焚き上げを行います。意義深い祭典の日にどうぞお越しください。

尚、松の内(正月1～7日)もご要望がありますので、お焚き上げのお納めを受付いたしますが、防火・防災・防犯の関係上、おふだ・おまもり・絵馬・当社で受けられた縁起物(熊手や破魔矢)等とさせていただきます。お焚き上げの際に、不要になった写真・人形・ぬいぐるみ・手紙・宗教団体からの案内状や書籍・カレンダー等々を紛れ込ませたりすることはご遠慮ください。

また、お正月の鏡餅の持ち込みもありますが、飾るだけでなく食べることによって神力が授かります。鏡餅の形をしたプラスチックの容器は、お焚き上げは必要ありませんのでご注意願います。

(防火管理者より)

# ふたあらかわら版 Vol.8

## 今号の表紙について

松本哲男《宇都宮》1986年　宇都宮市蔵

松本哲男(1943～2012年、佐野市出身)は日本美術院を活動の場とし、世界三大瀑布や文明の遺跡を描いた大型の作品で知られる。

本作《宇都宮》は上下二段の構成になっており、画面下部に宇都宮の市街が描かれている。一番目立つ通りはJR宇都宮駅から西側を眺めた大通り。画面手前には、いくつもの橋がかかる田川が見える。そして市街の上には、天からの光が降り注ぐ二荒山神社が大きく描かれている。松本の持ち味である雄大さと細やかさ、そして後年さらに磨かれてゆく幻想性が発揮された作品である。

本作が描かれた1986（昭和61）年に宇都宮市役所の現在の庁舎が完成した。その新庁舎は地平線を破ってやや目立つように描かれている。市の中心に建つ「下野國一之宮」を誇りに、このまちに住む人々のさらなる繁栄を願う作品であるといえよう。本作に基づく陶板画が市役所1階に掲げられており、行きかう市民の姿を今日も見つめている。

（宇都宮美術館　学芸員　伊藤伸子）

## 「擬宝珠」のレプリカを展示中

「擬宝珠(ぎぼし)」は、欄干の柱頭などにつける宝珠の飾りです。二荒山神社には宇都宮市文化財になっている「本殿勾欄(こうらん)擬宝珠」があります。関ヶ原の戦の戦勝祈願報賽(ほうさい)として、慶長10年(1605)徳川家康によって寄進されたものです。唐金(からかね)製で「宇都宮大明神御建立 征夷大将軍源家康」と刻まれています。

今回の御大典記念事業で、金箔が美しく修復されました。現物は間近に見られないため、原寸大の複製品を製作していただき、社務所の宝物コーナーに展示しています。現物と同様に表面にウルシをぬり、金箔を貼りつける伝統的な漆箔が施されております。

奉納　御大典記念《令和元8月吉日》
製作：有限会社 鈴木鋳金具工芸社　殿（日光市）

部分拡大

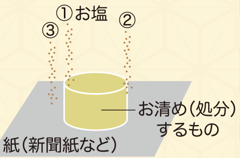
本殿勾欄擬宝珠(宇都宮市文化財)

## ご自分でおこなえる、お清めのしかた

二荒山神社でお焚き上げのお納めができるものは、神札・御守り・しめ縄やお正月の縁起物のみですのでご注意ください。人形やその他の神社に関係ないものはお焚き上げ致しませんので、お持ち帰りねがいます。(当面はダルマはお焚き上げします。)

右記を参考に、ご自分でお清めをおこなって処分してください。

- 紙(新聞紙など)を広げて、お清め(処分)するものをその上に置きます。
- 次に「祓え給い(はらえたまい)、清め給え(きよめたまえ)。」と三回となえて、お清めするものに、お塩を ①左 ②右 ③左と三回かけます。
- 最後にそのまま紙でつつんで処分します。
(行政の区分にしたがって廃棄してください)




**【おたりや】の【お焚き上げ】は、毎年、春渡祭(1月15日)と冬渡祭(12月15日)**

## 回想

本年予定されていた天皇陛下御即位に伴う祭典のすべてが滞りなく斎行された。大迫力のうつのみや流鏑馬、宇都宮の街の活気をより一層感じた御大典奉祝神輿渡御、また神社内で行われた即位礼、また大嘗祭当日に神社で行う祭祀と、どの行事を振り返っても、奉祝事業らしい、厳粛かつ賑やかなものであった。私はその様子を通して、宇都宮の人々の天皇陛下御即位をお祝いする気持ちを、より一層感じることができた。二荒山神社に奉仕する者のうちの一人として、とても誇らしく思えた。(圭)

神社のホームページでは、お問い合わせの多い、ご祈祷やお焚き上げに関する情報をご確認いただけます。また年２回発行の社報のバックナンバーもご覧いただけますのでご利用ください。

宇都宮二荒山神社　検索

スマートフォンなどでもご覧いただけます。

令和元年12月「明神さま」二荒山神社社報 Vol.8 発行
発行所／二荒山神社 〒320-0026 栃木県宇都宮市馬場通り一丁目1番1号 ☎028-622-5271 FAX 028-624-3204 編集・制作／有限会社随想舎 取材編集／岩崎剛典 印刷／晃南印刷株式会社